

社会貢献活動

役社員一人ひとりが、社会が抱える様々な課題の解決に向けた活動を行うことで、社会の持続可能な発展に貢献することを目指しています。

コミュニティ参画及び発展



社会貢献活動 1 被災地支援活動、災害支援活動

2013年度入社プロフェッショナル社員(クラスII)による東日本大震災被災地支援活動

SMBC日興証券では、2013年度入社のプロフェッショナル社員(クラスII) 191名が、2013年7月に東日本大震災復興支援活動を行いました。

この活動は、2011年度から継続的に行っており、3回目となる2013年度は宮城県南三陸町にて農業支援と海岸清掃を行いました。

この活動は、社会貢献活動の意義・重要性を学び、新入社員間における一体感の醸成を図ることを目的としてCSR活動を実践しています。

日程	活動内容	参加人数
2013年 7月1日(月)~5日(金)	宮城県南三陸町で農業支援	82名
2013年 7月8日(月)~12日(金)	宮城県南三陸町で農業支援/海岸清掃	109名



▲農業支援

▲海岸清掃

VOICE



人材育成部 副部長
渡部 幸子

被災地支援活動への参加について

2011年3月11日、未曾有の東日本大震災発生。その地震からわずか100日余りの7月、2011年度入社クラスII社員は、被災地に向かいました。鉄道や道路など交通網は勿論整備されておらず、道具や備品の準備もままならない中での出発、「被災地に到着できるのか」そんな不安を胸にバスに乗車したのを昨日のことのように覚えています。それから3度目の夏、2013年度もクラスII新入社員は被災地を目指しました。震災発生から1年、又1年と経過するにつれて様々な復興事業が為され被災地も大きく変わりましたが、まだまだ支援が必要だと行く度に痛切に感じます。新入社員は4月に入社し2ヶ月間入社研修を受け、

6月にそれぞれの配属部署に赴任し、1ヶ月間実務に携わった後、7月に社会貢献活動研修に出発しました。研修後の実務経験は彼らを大きく成長させるのでしよう。1ヶ月離れただけですが、再び会った皆の顔はとて凛々しくなっているのをうれしく、又頼もしく感じました。被災地に赴き、ボランティア活動を実施したあとは、凛々しさに加えて、とても重要な大切な何かを得た、そんな思いが新入社員の表情に表れ、その思いを胸に、再び其々の部署へ戻って行きました。一人一人の力は小さいですが、皆の力を併せ、継続的に社会貢献活動に取り組んでいければ、と願っています。継続は力なり!です。

災害支援活動

世界各地で発生した自然災害の被災者を支援するため、有志による支援物資の寄贈や、被災地域に関連するファンドの収益の一部を義援金として寄贈してきました。また、災害支援のための役社員向け銀行口座を開設し、役社員にも支援を呼びかけるなど、会社・社員が一体となって取り組んでいます。

2013年度に支援を行った主な災害等

- 中国四川省地震(2013年4月発生)
- フィリピン台風30号被害(2013年11月発生)*

*当社は、役社員からの募金総額と合わせて同金額を会社からのマッチングギフトとして寄付しました。

ボランティア休暇

2011年4月、NPO団体等が主催する災害復興支援活動に参加する社員をサポートするために、ボランティア休暇(特別有給休暇3日間)を導入しました。ボランティア休暇は他の休暇(連続休暇等)と連続して取得することができるため、最大10営業日の休暇取得が可能です。

また、2012年度以降は、適用範囲を災害復興支援以外のボランティア活動にも拡大し、引き続き社員の社会貢献活動を支援しています。

2014年3月末までのボランティア休暇取得人数は累計37人でした。

社会貢献活動 2 Green Week

Green Week

2010年秋より環境保全・社会貢献活動強化期間「Green Week」を設けています。

社会貢献活動への参加を通じて、環境保全についての理解を深めながら、地域社会や参加者同士のコミュニケーションを図ることを目的としています。より多くの役社員が自主的にCSR活動に参加出来る機会でもあり、当社役社員の一体感の醸成にも繋がっています。

2013年10月19日(土)～10月27日(日)に開催された「Green Week 2013」では、環境保全活動やペットボトルキャップなどの収集活動を行い、ご家族も含め、延べ6,678名の参加がありました。



▲清掃活動の様子



▲外来種の除草の様子



荒川クリーンエイド

荒川流域でのゴミ拾いを通じて、社員の環境保全意識を高め、生物多様性の保護に貢献します。ゴミを分別し、数えながら拾うことでゴミのない社会を目指し、併せて外来種の除草と自然環境教室も実施しました。当社は2006年から同イベントを毎年継続して行っており、2013年度は役社員とその家族、計240名が参加しました。

VOICE



監査部
鈴木 恒成

荒川クリーンエイドは我が家の大切な行事

荒川クリーンエイドには、2006年に行われた1回目から毎年欠かさず家族全員で参加しています。きっかけは、我が子に社会貢献を経験させる、自然や環境に関心を持たせる、家族の絆を深める、人と協力する事の大切さを育む、親としては社会の一員としての責任、未来の環境を守りたい思いからでした。初参加の時は、多岐に渡るゴミの種類と膨大な量に愕然としました。中には子どもに見せたくないゴミ、注射針などの危険なゴミもある為、恐怖さえ感じましたが、終了後には想像以上の達成感がありました。

集計しながらの作業の為、収集や分別に悪戦苦闘しつつ、子ども達は実体験を通じて大好きな動物や昆虫を守る為に何をすべきか、何をすべきか、自然との共生が自分達の暮らしを守る事に繋がると理解してくれたようです。自然環境教室では河川敷の様々な生態系を知る事もできました。荒川クリーンエイドは我が家にとって大切な行事の一つとなりました。今後も引き続き参加したいと思っています。

VOICE



SMBCマーケティング部長
吉田 稔

癒しや安らぎを与えてくれる自然に敬意を

天気の良い休日、健康維持(ダイエット)と気分転換を兼ね自転車を走らせている私にとって、荒川は絶好のサイクリングコースです。今回、いつもお世話になっているホームグラウンドに恩返ししがたく、部員を誘ってクリーンエイドに参加しました。当日は久保社長をはじめ多くの社員とその家族が参加し、ちょっとしたお祭りのような雰囲気での活動が始まりました。幾つかのチームに分かれ荒川河川敷に分け入ると散乱した多くのゴミがあり、大変ショックを受けました。身勝手な人の行動に憤りも感じましたが、一方でゴミを取り除く事で瞬

く間に生き生きと本来の姿に戻る自然の逞しさを実感する事もできました。ギブ&テイクではありませんが、私たちに癒しや安らぎを与えてくれる自然に対し日頃から敬意を示し、自然と共存していく姿勢を持つ事が必要であると改めて考えさせられた1日となりました。この気づきを忘れないよう今後も機会があれば参加していきたいと思ひますし、このような活動に一人でも多くの社員の方々が参加されることを期待しています。皆さん、やってみると意外と気持ちいいですよ。

大阪マラソンボランティア

大阪マラソンは、参加する全てのランナーをはじめ、観客、ボランティア等、当マラソン大会に関わる多くの人にチャリティへの参画機会を提供することでチャリティ文化の普及を目指しており、当社はボランティアとして2011年の第1回から参加しています。

3回目となる2013年は、御堂筋ブロックにおける沿道整理やランナーサポート、フィニッシュブロックにおけるランナーへの手荷物返却を担当し、役社員計164名が参加しました。



▲沿道整理



▲ランナーへの手荷物返却の様子



VOICE



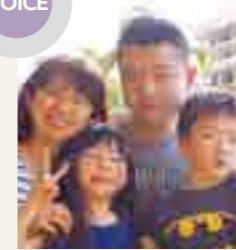
大阪支店
近藤 彩音

大阪の人々の温かさや明るさに触れて

大阪マラソンは3万人のランナーが走る市民参加型のマラソン大会で、東京マラソンに次ぐ大規模な大会です。大阪城公園前から始まり、ゴールのインテックス大阪まで大阪市内を駆け巡ります。大阪支店では2011年の第1回大会から毎回100名近くがボランティアとして参加し、沿道の整備やランナーサポートなどを行っています。皆でお揃いのユニフォームを着てチームで分担して作

業し、普段会社では話す機会がない社員とも会話が生まれ、社員同士の仲が深まりました。沿道で見守る人々の温かい声援や一生懸命に走るランナーを見てみると、毎年胸が熱くなります。大阪の人々の温かさや明るさに触れ、この街の魅力に改めて気付かされます。これからも地域貢献活動を通して大阪の街や人と関わり、少しでも地域に恩返しできればと思います。

VOICE



御堂筋本町支店
杉浦 一馬

スポーツの素晴らしさを改めて実感

大阪マラソンは大阪城から南港までのルートを走る大阪最大のスポーツイベントでありながら大阪最大のチャリティイベントでもあります。30,000人のランナーに対して10,000人のボランティアがそれを支えます。今回私たちはスタート地点で預かった手荷物をゴール地点で返却する仕事を任されました。依頼が来たときは地味な仕事かなと思いましたが、意外に重労働で、ランナーのゴールインが集中する時間帯はいかに効率的に返却できるかをリーダーとして工夫しながら活動に取り組み、非常にやりがいのあるボランティアでした。

休日のこういったイベントにお客さんとして参加することはあっても運営のお手伝いをする機会は少ないので、ボランティアの方々のありがたみが身に染みて分かりました。またゴールしたランナーから疲れているにも関わらず清々しく「ありがとう」と言葉をかけていただいたことでスポーツの素晴らしさを改めて実感しました。次回もこのような機会があれば是非とも参加したいと思うとともに、いつかはランナーとして参加したいと思います。

社会貢献活動 2 Green Week

収集活動

全国の部室店や関係会社で行うことが出来る活動として、当社では使用済み切手、未使用文具、ペットボトルキャップの収集活動を行いました。



i) 使用済み切手
国際協力NGOジョイセフとの協働により、部室店から寄せられた使用済み切手を換金し、発展途上国の母子保健活動のために寄付しました。

ii) 未使用文具
国際協力NGOジョイセフとの協働により、途上国の子どもに文具を贈呈しました。

iii) ペットボトルキャップ
NPO法人 キャップの貯金箱推進ネットワークとの協働により、収集したペットボトルキャップを、障がい者自立支援施設に分別作業を委託することで障がい者自立支援施設へ仕事を提供し、その後、リサイクル業者に売却、売却代金を障がい者自立支援施設費とワクチンの購入代金として寄付しました。

■ Green Week 2013期間中に当社が主催したイベント

活動名	参加者数	参加部室店数	備考
荒川クリーンエイド	240名	25部室店	子ども参加者18名
大阪マラソンボランティア	164名	12部室店	
使用済み切手収集	2,342名	53部室店	
未使用文具収集	509名	10部室店	
ペットボトルキャップ収集	3,423名	89部室店	618kg、ワクチン309人分
合計	6,678名	189部室店	

Green Week 2013期間中に行われた支店・関係会社での社会貢献活動

「第31回江東区民まつり」ボランティア (日興ビジネスシステムズ)

10月19日(土)に、日興ビジネスシステムズの有志35名が都立木場公園で開催された「第31回江東区民まつり」にボランティアとして参加し、ふれあい広場に設置された「ミニ新幹線」や、中に入って遊ぶことのできる「ふあふあアトム」などのアトラクションを担当しました。

日興ビジネスシステムズは2010年から毎年当ボランティアに参加しており、今年で4年目の参加となりました。



▲第31回江東区民まつり

社会貢献活動 3 その他の活動

国際協力NGOシャプラニール=市民による海外協力の会との協働

2012年より、南北問題に象徴される現代社会の様々な問題、とりわけ南アジアの貧しい人々の生活の問題解決のために、女性や子供たちへの支援活動を国内外で行っている国際

協力NGOシャプラニールとの協働を行っています。



1 「ステナイBOOKで被災地支援!」 キャンペーン

不要になった本・CD・DVD等を各部室店から収集し、東日本大震災の被災地支援活動に寄付しました。

■ 「ステナイBOOKで被災地支援!」キャンペーン

参加部室店数	18部室店、1関係会社
寄付金額	29,724円

2 「あなたのはがきが、だれかのために。」 キャンペーン

書き損じたはがきや古いはがきなど、未投函の郵政(官製)はがきを集め、これらが切手シートに換えられ、その切手シートを金券ショップで換金した資金で途上国の働く子どもたちの支援活動に活用するための寄付を行いました。

■ 「あなたのはがきが、だれかのために。」キャンペーン

参加部室店数	26部室店、2関係会社
収集枚数	1,086枚
寄付金額	46,305円

障がい者スポーツの支援「ブラインドサッカー」

当社は、「多様性の尊重」を経営理念の柱の一つとしており、「視覚障がい者と健常者が当たり前混ざり合う社会を実現する」との日本ブラインドサッカー協会のビジョンに深く共鳴し、2014年11月に日本で開催される「IBSA*ブラインドサッカー世界選手権2014」に協賛させていただくことに致しました。本大会では、社員ボランティアの派遣等により大会運営のサポートもさせていただきます。今後も、当社は、ブラインドサッカー支援を通じて、全ての人が尊重さ

れる社会の実現に貢献してまいります。

※IBSA: 国際視覚障害者スポーツ連盟 International Blind Sports Federation



▶前回2010年の世界選手権の様子(イングランド大会)

日本赤十字社との協働



社内イントラネット内に、当社社員専用の日本赤十字社への寄付申込システムを導入しました。これは災害発生時や設定されたテーマに対して、簡単な操作で役社員が寄付を行うことができるもので、寄付の累計額や寄付金の受領証の発行等の手続きも同システム内で行うことが出来ます。

